

(平成 30 年 3 月試験研究業務月報)

試験研究課題：小麦奨励品種決定調査

研 究

小麦の生育と実肥の施用法について

今年度、多収で製パン性の高い「せときらら」が京都府の新たな小麦奨励品種として採用されました。「せときらら」を栽培する上で、優れた製パン性を発揮させるためには、実肥を施用してタンパク質含有率を高めることが重要となります。

そこで、従来は固形肥料を背負式動力噴霧器で施用し、労働負担が大きかったため、当センターでは開花期に散布する防除薬剤に、液肥の「尿素」を混合し、動力散布機による省力的な施用技術を検討しています。

本年産の小麦の生育は、11 月の播種以降、平年より気温が低く生育は約 10 日遅れていましたが、3 月以降は高温の影響で生育が促進され、出穂、開花とも平年より早まると予想されますので、実肥は平年より 1 日早い 4 月 21 と 4 月 28 日頃に 2 回に分けて施用する予定です。

※ 実肥：出穂後に施す追肥のこと。窒素肥料を施用することでタンパク質含有率を高めることができる。



センター内ほ場の「せときらら」

農林センター